

# 3歳未満児保育室における手づくりおもちゃに関する調査研究

## A Study of Handmade Toys in Child Care Room for Children under Three Years Old

林 陽子  
Yoko HAYASHI

今後さらに増加が予想される3歳未満児の保育所入所児及び一時預かり保育児、途中入所児等の保育の質の向上を視野に、手づくりおもちゃについてその実態と保育士の意識についてA県O市において調査研究を実施した。調査項目は、0～2歳児までの保育室において製作され使用されている手づくりおもちゃの種類、その利点と不都合、手づくりおもちゃの意義に関しての意識、衛生的管理及び安全面での管理の実態等である。その結果、多種類の手づくりおもちゃが製作使用されており、保育士はその利点と不都合について専門的な視点で評価していることが分かった。また、保育士が捉えている手づくりおもちゃの意義と製作への意欲は、遊びやおもちゃ本来の特性や役割と合致するものであり、今後は、既成のおもちゃと比較しつつ、保育の質との関連で研究を進める必要性が明らかになった。

キーワード：手づくりおもちゃの実態 3歳未満児保育 手づくりおもちゃの意義 管理の実態

### 1. はじめに

現在、保育所における3歳未満児保育は待機児童の増加、保育時間の長時間化等、多くの課題を抱えている。少子化対策の一つとして3歳未満児保育の拡充を掲げて保育の充実が図られた結果、待機児童数は一時減少したものの、表1～3に示されるように2010年4月当初の実態として、増加傾向に転じた。特に「低年齢児の待機児童数は全体の1.9%を占める。そのうち、特に1・2歳児の待機児童数(1万7千492人)が多い」(厚生労働省)とされ、都市部を中心に3歳未満児の保育室は常に定員いっぱいを保育するため、現状では満室である。

表1 平成20年・21年の保育所待機児童数の状況  
(厚生労働省統計による)

	21年4月1日(A)	20年4月1日(B)	差引(A-B)
待機児童数	25,384人	19,550人	5,834人

表2 平成21年 年齢区分別の待機児童数  
(厚生労働省統計による)

	21年利用児童数(%)	21年待機児童数(%)
低年齢児(0～2歳)	709,399人(34.8%)	20,796人(81.9%)
うち0歳児	92,606人(4.5%)	3,304人(13.0%)
うち1・2歳児	616,793人(30.2%)	17,492人(68.9%)
3歳以上児	1,331,575人(65.2%)	4,588人(18.1%)
全年齢児計	2,040,974人(100.0%)	25,384人(100.0%)

表3 待機児童数の多い市区町村数

	市区町村
待機児童数100人以上	62 (52)
待機児童数50人以上100人未満	39 (32)
待機児童数1人以上50人未満	276 (286)
計	377 (370)

( )内は平成20年の数値

3歳未満児の入所児の増加は、対応する保育士の人数の増加を招き、保育現場の保育士の中にも現状を憂える声は少なくない。また、一日の保育所開所時間も平均11.4時間と長時間化の傾向にあり、多くの低年齢児が長時間にわたり保育所で生活している。加えて、0歳児と1歳児が合同で保育される現状や、1歳児と2歳児が合同で保育される現状もある。これらのことは、一人ひとりの乳幼児の目からは、一日のうちで複数の異なる保育士に保育されることになり、さらに、一日の保育体制が時おり変わることにより、保育の場所すなわち生活の場所の変動をもひきおこしている。また、一日中、同年齢であれ異年齢であれ、子ども集団に囲まれての生活やデイリープログラムに計画された生活を余儀なく送らざるを得ない、という状況にある。

一方で、3歳未満児の拠り所である家庭や家族の状況は、長時間の労働や、不安定雇用、不定期な勤務時間、母子・父子家庭の増加等、複雑な様相を呈する家庭や家族構成も多く見られるようになっている。

このような背景をもつ3歳未満児保育について実際に保育にあたる保育士が配慮していることは少なくない。

乳児の担当制や準担当制、個別の指導計画、保育士の業務の分担制、保育室の環境づくりや遊びの充実など、できるだけ1対1のかかわりを重視する保育の内容と方法に創意工夫が試みられている。中でも、保育室の雰囲気や物的環境を家庭に近づけることは、保育室が生活の場として安心・快適な環境で自己発揮できる、子どもにとってもっともふさわしい生活の場となるようにという願いでもあり必要なことでもある。

このような配慮のひとつとして、手づくりおもちゃや手づくりの環境グッズが重視され使用されていることは、よく知られていることである。定期刊行される保育雑誌にも保育士向けの書籍の中にも手づくりおもちゃや環境の工夫のアイデアや製作方法が多く見られる。一方、手づくりおもちゃや環境についての研究は寺島明子氏の『乳幼児の保育環境—手づくり遊具・玩具の効果—(一考察)』<sup>(注1)</sup>『学生のイメージする「既存玩具と手づくり玩具」に期待している点—アンケート調査から分析』<sup>(注2)</sup>等はあるものの、他にはあまり目にすることがないように思われる。

本研究では、3歳未満児の保育室において、どのような手づくりのおもちゃや環境グッズが製作され活用されているか、また、実際に保育に携わる保育士が手づくりおもちゃ等についてどのような意識をもっているかを調査によって明らかにすることで、これらの手づくり品が、3歳未満児の保育室においてどのような意義を持ち得るのかを明らかにする。

## 2. 3歳未満児保育室における現状—A県O市全保育園(48園)における調査研究の結果

### (1) 調査の概要

- ① 調査時期：2010年2～3月
- ② 調査対象と回収率：公私立認可保育園48園(全保育園) 回収率は100%
- ③ 調査方法と回答者：質問紙法により、各園の主任保育士に回答をお願いした。回答は、園名を記入、回答された質問紙は封をし、手渡しによった。

### (2) 調査項目

今回の調査では、3歳未満児の保育室について以下の項目への回答をお願いした。回答は①以外は自由記述である。

- ① (各年齢ごとに)手づくりおもちゃを使用しているか
- ② (各年齢ごとに3点以内)よく遊ばれている手づくりおもちゃの種類・大きさ・材料・使用時の姿・利点・不都合な点
- ③ (各年齢ごとに)②以外で使用されている手づくりおもちゃ
- ④ (各年齢ごとに)これから作ってみたいと思われるおもちゃ

るおもちゃ

- ⑤ 3歳未満児にとっての手づくりおもちゃの意義
- ⑥ 手づくりおもちゃの衛生的・安全面での管理方法
- ⑦ (3歳以上児も含めて)手づくりおもちゃについて感じていること

### (3) 調査結果

本研究では、特に①、②の種類、⑤、⑥について考察するので、結果についても上記の項目を中心に報告する。

#### ① 手づくりおもちゃの製作使用の状況

3歳未満児保育のクラスにおける手づくりおもちゃの製作使用状況は以下のようであった。

使われている：36園 クラスによって様々：11園  
使われていない：0園 無効：1園

#### ② 手づくりおもちゃの種類と傾向

各年齢毎に「よく遊んでいる手づくりおもちゃを3種類以内」で問うたところ、以下の結果を得た。

0歳児：38園で使用 合計 104種

1歳児：44園で使用 合計 122種

2歳児：47園で使用 合計 130種

これら総計356種のおもちゃを分類したところ、表4に示す結果を得ることができた。年齢の特徴やおもちゃの特性により、おもちゃの機能が単一であることはあり得ないが、おもちゃについての詳細な記述と「遊ぶ姿」の記載内容から推測し主な機能としてまとめた。たとえば、パズルは「手指を操作して形を創る」おもちゃにも分類できるが、実際の楽しむ姿として「早くできることを友だちと競って楽しんでいる」とか「早くできるようになったことを認めてもらいたい」等の報告があるので「技や知恵を競う」おもちゃに分類した。

表4 分類別手づくりおもちゃの数 (数字は個数)

	0歳児	1歳児	2歳児	
手指を操作して形を創る(合計)	12	26	51	
内訳	a積み木・ブロック様おもちゃ	3	2	4
	bつなぎおもちゃ	4	2	2
	c形を構成する(平面)	1	0	0
	dせんたくばさみ	0	9	13
	eボタンつなぎ	4	13	32
出し入れを楽しむ(合計)	30	31	4	
内訳	fぽとん落とし	15	19	2
	g出したり入れたり	11	2	0
	hひもとおし	4	10	2
ころがしたり乗ったりして遊ぶ(合計)	17	10	8	
内訳	iボール	4	2	0
	j乗り物(乗ってあそぶ)	3	2	5
	kかんぼづくり	0	1	0
	l大型箱型遊具	10	5	3
鳴らして遊ぶ(合計)	17	7	3	
内訳	mマラカス	2	5	3
	n音を聞く	15	2	0
つもりやごっこを楽しむ(合計)	17	35	41	

内訳	o ままごとの食材	1	16	25
	p ままごとコーナー用具	9	5	2
	q なりきり用小物	5	11	6
	r 人形	2	3	8
s 絵本		3	2	0
技や知恵を競う(合計)		0	6	17
内訳	t 魚つり	0	1	6
	u お手玉	0	0	1
	v パズル	0	5	10
その他の大型遊具(合計)		8	5	6
内訳	w 壁掛け多機能遊具	5	5	5
	x つい立	1	0	1
	y 総合遊具	2	0	0

- ③ 主任保育士が意識している手づくりおもちゃの意義  
主任保育士が意識している手づくりおもちゃの3歳未満児にとっての意義は、以下のようであった。

表5 主任保育士が意識する手づくりおもちゃの意義

	内 容	件数(%)※
1	温かみ・温かさ・ぬくもりがある	24 (23.1)
2	個々の発達・育ちに合ったものが作れる	21 (20.2)
3	個々の興味・関心・大きさ・好みにあった使いやすいものが作れる	18 (17.3)
4	手触りがよい・優しい	8 (7.7)
5	材質・色・形・数量・音等が工夫できる	7 (6.7)
6	保育士の愛・愛情・思い	6 (5.8)
7	発達を促す・知育・生活能力を促す	4 (3.8)
8	優しい・やさしい・やさしさ	4 (3.8)
9	家庭的・安心感	4 (3.8)
10	安全・安心である	3 (2.9)
11	使っている姿を見て保育士が嬉しい・子ども理解につながる	2 (1.9)
12	修繕しやすい	2 (1.9)
13	みたくて遊びができる	1 (1.0)
合 計(延べ件数と%)		104 (99.9)

※少数点第2位を四捨五入

- ④ 清潔と安全確保のための留意事項  
各園において留意され実行されている衛生的な管理の内容と安全面での管理の内容に関しては、表6のとおりであった。

表6 手づくりおもちゃの衛生的管理と安全面の管理

(数値は件数 ( )は全園数に占める割合)

衛生的面での管理		安全面での管理	
洗い・水洗い・水拭き	43 (91.5%)	大きさ長さに注意	7 (14.9%)
日光消毒	30 (63.8%)	誤飲チェッカー使用	5 (10.6%)
消毒・塩素系消毒薬等で拭く	25 (53.2%)	破損のチェック	5 (10.6%)
材料の吟味	6 (12.8%)	作り方に注意・作り直す	4 (8.5%)
作り直す	2 (4.3%)	チェック票使用	1 (2.1%)
保管に注意	1 (2.1%)	そばにつく・注意	3 (6.4%)
吐しゃ物が付いたものは捨てる	1 (2.1%)		

### 3. 考察

#### (1) 手づくりおもちゃの使用状況及び種類と傾向

前述の結果から、有効な回答のあった3歳未満児保育を実施している保育園ではクラスによる差異はあるものの、すべての園で手づくりおもちゃを製作使用していることが分かった。

さらに、3歳未満児が過ごす保育室でよく使用されている手づくりおもちゃの種類は表4のとおりであるが、この結果から以下のようなことが明らかになった。

まず、非常に多種類のおもちゃが作られ使用されているということである。1園につき「各年齢ごとに3種類以内」という限定的な聞き方であったが、ほとんどの園が3種類を記載した。

その内容を見ると、上位3種類は、「手指を操作して形を創るおもちゃ」が89種類、「つもりやごっこ遊びを楽しむためのおもちゃ」も89種類、「出し入れを楽しむおもちゃ」は65種類であった。年齢に注目してみると、年齢が高くなるほど多くなるのは、「手指を操作して形を創るおもちゃ」「つもりやごっこ遊びを楽しむためのおもちゃ」「技や知恵を競うおもちゃ」であることが分かる。また、逆に年齢が上がると少なくなるおもちゃは「ころがしたり乗ったりして遊ぶおもちゃ」「鳴らして遊ぶおもちゃ」であることが分かった。「出し入れを楽しむおもちゃ」は0・1歳児によく遊ばれているが、2歳児になると急激に使われなくなる。「絵本」が2歳児に全く使用されていないのは、手づくり絵本の限界でもあるリアルさやストーリー性の不足等が要因であると思われる。「その他の大型遊具」はあまり年齢と関連性がないように思われた。

すなわち、保育士たちは発達の姿に応じたおもちゃや発達ごとの遊びの展開を支えるおもちゃ、そして子ども達に好まれるおもちゃを的確に製作していることが明確になったのではないだろうか。おもちゃの例を図1～3に示す。

また、ここでは詳細な分析は避けるが、表4に示した手づくりおもちゃ以外でよく使用されている手づくりおもちゃについて問うたところ、0歳児については18園から48種類のおもちゃが示された。1歳児については

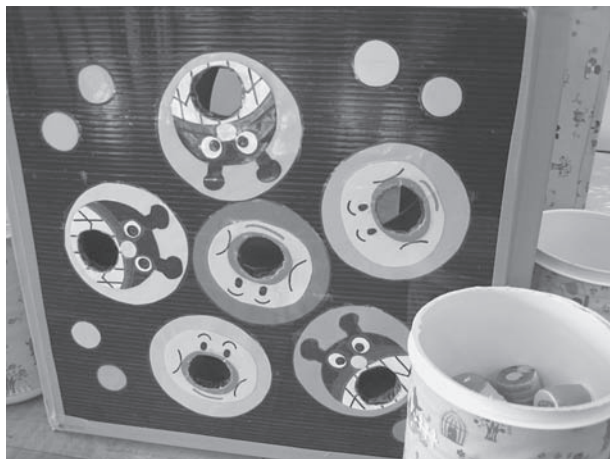


図1 「ぼっとな」の一例

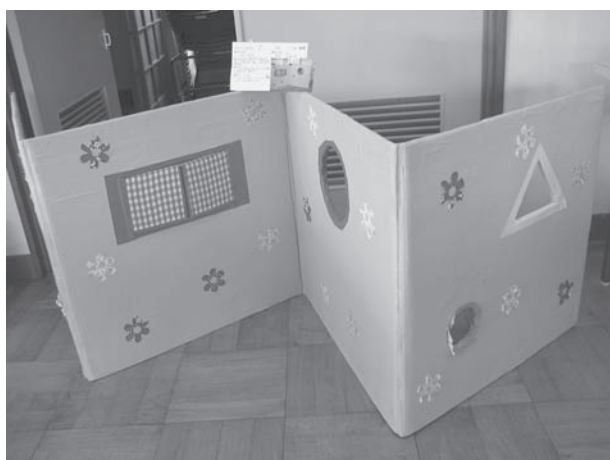


図2 「ついたて」の一例



図3 「総合遊具」の一例

25園から75種類が示された。2歳児については31園から75種類が示された。また、これから作ってみたいと思うおもちゃについて問うたところ、0歳児については26園から34種類のおもちゃが示された。1歳児については26園から36種類が示された。2歳児については28園から48種類が示された。この種類のカウントは、「引っぱり遊び」や「ままごとの食材」等、一括して記述されたものも多く、実際にはさらに多くの種類があることが窺われる。

また、この質問項目については、それぞれの手づくりおもちゃの「利点」と「不都合な点」も併せて聞いている。詳細な分析は別に譲るが、多くは子どもの心身の発達に資する内容や必要と思う時にすぐに多数のおもちゃを提供することができる、等の利点をあげている。不都合な点については、58点(全おもちゃの16.3%)のおもちゃについて記載があった。多くは衛生面と安全面に関する内容であった。

以上の考察から、A県O市の保育園では、3歳未満児を対象にして年齢に合った手づくりおもちゃが製作され使用されていること、それらの利点をはっきり認識されていること、不都合もあるがその不都合が認識されていること、等が明らかになった。

### (2) 3歳未満児にとっての手づくりおもちゃの意義

保育士が意識している手づくりおもちゃの意義については、表5に示すとおり、最も多い意見は「温かみ・温かさ・ぬくもりがある」で24件(23.1%)であった。以下「個々の発達・育ちに合ったものが作れる」21件(20.2)「個々の興味・関心・大きさ・好みにあった使いやすいものが作れる」18件(17.3)「手触りがよい・優しい」8件(7.7)と続き、保育士の視線からは「保育士の愛・愛情・思い(が伝わる)」が6件(5.8)見られた。

この結果から、元來手づくりおもちゃがもっていた特性、すなわち温かさや優しさ、愛情を感じさせる、等の特性が保育士の意識の中に十分に反映されていると解釈できる。また、子どもの発達や興味・関心・体や指先の育ちの現状に合っていると見る見解には、保育士の専門性が反映されていると思われる。これらの点は、既成のおもちゃだけでは十分な保育が困難であると意識されていることを示しているのではないだろうか。

### (3) 手づくりおもちゃの衛生的・安全面での管理方法

前述したように、手づくりおもちゃは多くの利点があると評価されている半面、不都合な点も少なからずある。そこで不都合な点として、清潔の保持の難しさと安全の確保の難しさの2点を予想し、「衛生面での管理」と「安全面での管理」について実態を尋ねた。結果は、表6のとおりである。

この結果から、衛生面については9割以上の保育園で「洗浄」「清拭」を取り入れていた。これは素材が洗えるものであるからであり、常時できる行為であるからであろう。また「日光消毒」も6割以上の保育園で実行している。半数以上の保育園では、塩素系等の消毒薬を用いていることが分かる。製作の段階で清潔を保ちやすい材料を使用したり、「作り直す」とする保育園もあった。消毒・滅菌の保管庫を使用している保育園もあったが、少ない。

安全面については、記述が少ないが、大きさだけでなく、首に巻きつかないように長さにも留意している、と

した保育園があった。誤飲チェッカーは1割の保育園が使用している。

これらの結果から、衛生面に関してはかなり細心の注意が払われているものの、安全面については未だ不十分な感が否めない。調査した保育園のうち、すべての私立保育園で看護師が配置されており、看護師の指導が衛生面の管理を推し進めていることも予想されるが、公立園での配置の実態と看護師の実際の機能については未調査である。

#### (4) 遊びとおもちゃ

ところで、3歳未満児の発達と遊びの関係はどのようなものであろうか。心が揺さぶられて初めて子どもは遊ぶのであり、命令されたり指示されたりして遊ぶことはない、と言われるのは3歳未満児においても同様である。以下、整理してみる。<sup>(注3)</sup>

##### ① 遊びと心身の発達

乳幼児期の遊びの第一の効用は、体を育てることである。あやしてくれる大人に、しっかり目を向けて笑ったり声を出したりすることで、首や背中や発声の器官が育つ。興味を惹かれた物を触りたくて、思わず寝返りしたりハイハイをしたりする姿は、足腰がそれなりに育ってきていることと相互の関係がある。細い紐や小さな積み木を操作することで、手指も器用になることが期待される。また、動き回ったり機嫌よく遊ぶことで、内臓や運動神経も育てる。

次に、子どもは興味関心から発した疑問に突き動かされて触ったり試したりするが、これは探索活動である。いわゆる「いたずら」と呼ばれる行為の多くはこの探索活動であるが、このような探索活動の結果、物事の特徴や形状、機能や因果関係が感じられたり理解できたりする。このような知的な関心と納得して獲得した知識や技能は、後の発達の基盤となりうる。また、探索活動は、遊びの中で展開されると言えよう。

さらに、保育士や友だちと笑い合い、模倣をし合い、誰かのひと言で新しい遊び方に転換していく等の姿からは、保育室という小さな社会であっても、そして3歳未満児という発達の初期の段階の子どもであっても、社会的な存在の主張であることを窺わせる。このような姿は、遊びの共有がきっかけとなることが多く、共感の体験はその後の人生に欠くべからざる体験であろう。

1歳半頃から芽生えてくる、みため・つもり行動は、象徴機能の発達の結果でもある。目の前ものを別のものに見立てたり、見えていないものをまるでそこにあるかのように想像する楽しさや興奮は、幼児期にさかんになるごっこ遊びの基礎になる。ごっこ遊びは、象徴機能の育ちだけでなく役割

意識や人間関係の育ちと相互に関係している。社会性や人間関係性を育てる大事な活動は、実はこのような遊びなのである。このような遊びに欠かせないのは、イメージを支え広げるおもちゃである。何もなくても子どもは遊べる、と言われるが、低年齢の子どものみため・つमりの遊びには、なりきることを支え、子ども間で合致しにくいイメージを共有させるためにも、おもちゃが必要なのである。

##### ② おもちゃと情緒の安定

入園初日の子どもは、たとえ3歳未満児であっても、多くの場合緊張している。見知らぬ場所、見知らぬ子どもたち、経験したことのない環境はストレスの要因である。しかし、面白そうなおもちゃや慣れ親しんだおもちゃを手にとることで、それらを精神的な支えとして、安定することが今回の調査研究の協力者から報告されている。入園してしばらくの間、家庭で遊んでいるおもちゃを持参して登園する子どももこの例である。

また、それまで体験したことのないものであっても、子ども自身が面白いと感じれば、興味を抱いて手にとろうとする。遊びをより面白くするためだけではないおもちゃの存在意義がある。

##### ③ おもちゃが引き出す遊びの面白さ

自分の思いのままに形を変えたりイメージを宿らせることができるおもちゃは、子どもに構成する面白さと充足感を感じさせる。全身を使って乗ったり動かしたりするおもちゃの場合は、本物の乗り物を思い描いたり、その世界を取りしきる醍醐味を体験することができる。本物に近いおもちゃも、デフォルメされたおもちゃも遊びの面白さを引き出すことにおいては変わらない。パズルやゲームのようなおもちゃは知的な好奇心や競う面白さを充足させる。2歳児クラスの子ども達にもこのような姿はよく見られる。

#### (5) 調査結果からみる手づくりおもちゃの意義

すでにみてきたように、保育士の意識としては、手づくりおもちゃの意義は大きいものがあつた。この結果と上述した遊びやおもちゃの意義とを考え合わせると、さらにその意義は確かなものになるであろう。

すなわち、A県O市の保育園においては、多くの手づくりおもちゃが、保育士の専門的な洞察と熱意によって作製されていたのである。「みんなで」や「いっしょに」「順番に」使うことが困難な年齢の子どもに、情緒の安定にも資する、個々の子どもが「自分だけのおもちゃ」と感じることでできるおもちゃの製作や、どのような遊びに用いられるかをも予測して製作していたのである。

保育予算の削減に伴う財政の厳しさから、手づくりおもちゃの製作費用の安価な側面も見逃せないとは思われるが、今回の調査ではそのような視点は報告されなかつ

た。むしろ、サイズや材質が自由で「子どもの喜ぶ表情が見たい」という動機が強い。

今日では、市販のおもちゃにも優れたものが多く出回っており、サイズや材質も多様であるが、特定の子どもに最適なおもちゃを探し出すのは、簡単なことではないであろう。このことも、保育士が手づくりおもちゃの製作を手掛ける要因となっているように思われる。

#### 4. 今後の研究の方向性と課題

3歳未満児を担当する保育士の、手づくりおもちゃや環境構成グッズを新たに製作したいという意欲は並々ならぬものがあることが分かった。意欲だけではなく、製作のプラン、すなわちイメージやデザインが明確なものが多いことも明らかになった。いわば、保育士の意欲や願いが今回の調査結果を生じさせたのではあるが、現実には、多忙を極める保育業務の中で、勤務時間中におもちゃや環境構成グッズを製作することは不可能である。さらに、生まれたときから今日まで、日常生活のほとんどを大量生産の消費財で営んできた中堅や若い保育士が多いのも事実である。そのような人々にとっては、仮に情熱があったとしても知識や技術が、子どもに供することのできる手づくりおもちゃを製作するには十分でないことも予想される。

今回の調査研究は、限られた地域での調査が基になっている。また、既成のおもちゃとの比較研究もなされていない。今後は、以下の課題に迫ることができるよう、研究を続けていきたい。

- (1) 調査範囲を拡大し、一般化し得るデータを得る。
- (2) おもちゃを使用する子どもの実際の姿や育ちをデータとして入手し、おもちゃとの関連を探る。
- (3) (2)の視点をもふまえ、既成のおもちゃとの比較において、手づくりおもちゃがどの程度必要な保育環境の構成要素であるか、保育の質との関連で明らかにする。

#### 【謝辞】

煩雑で内容的にも記述しにくいアンケート調査にご協力くださいました園長先生、主任保育士の皆さま、毎日の業務の合間に手づくりおもちゃを製作し子ども達に供して下さった保育士の皆さまに心より感謝申し上げます。

#### 【文献】

- 注1 寺島明子『乳幼児の保育環境－手づくり遊具・玩具の効果－(一考察)』松本短期大学紀要14号 2005 p67－82
- 注2 寺島明子『学生のイメージする「既成玩具と手づくり玩具」に期待している点－アンケート調査から分析』松本短期大学紀要15号 2006 p79－87
- 注3 林陽子編著『乳児と楽しむ手作りおもちゃ』愛智出版 2008 p 1- p 7, p9, p29, p50